視察研修報告書

行先	宮崎県小林市
期日	令和8年2月5日(木)
テーマ	シティプロモーションの取り組みについて
報告者	中園信二
概要	人口40,137人、高齢化率38.9% 面積563.09km² 全国的にみても広い方であり、人口密度は約75人/km²で全国平均の4分の1以下である。 人口は市街地に集中しておりその エリアを離れると豊かな自然が広がっている。八女市と人口配置はよく似ている。 小林市といえば高校駅伝の雄である。全国大会最多出場記録を誇り優勝7回 女子も複数回の入賞を果たしている。 基幹産業は農業。宮崎牛は4大会連続で総理大臣賞をとっているが、小林産の代表牛が3年連続日本一を果している。 自治体主体のインパクト重視のPRから"1億総メディア時代"の社会にならい、より共創を意識したプロモーションへシフト(2022年リブランディング)し、コンセプトは発信、発進、発振、ハッシンをキーワードに多様な人と一緒になって小林市の魅力を広める展開イメージとしてアウター(市外向け)で関係人口拡大、外貨獲得(ふるさと納税、消費流通拡大)、インナー(市内向け)で地域魅力の再発見、郷土への愛着など ハッシンコバヤシ(シティプロモーション)の取組みである。事業の1つとして高校生記者クラブがある。高校生の目線、感性で小林市をPR。地元のことを知り、多くの大人や社会人にふれて郷土愛を育み、いずれ市外に出ても地元に対する思いを持ち続けてもらいたいとのこと。 小林市出身の芸能人、著名人に協力を頂き色々なイベントやムービー製作も行っている。
所感	どこの自治体も人口減少に伴い、あの手、この手でシティプロモーションを行っているようである。八女市も同様で観光誘客施策としては市の農業特産品である八女茶を中心に伝統工芸品、豊かな自然風景、歴史的伝統施設、色々な祭りイベント等、シティプロモーションとしては負けてはいないと思う。

視察研修報告書

Date　　No.

行先	宮崎県東諸県郡綾町
テーマ	学校給食の地産地消及び有機農業推進施策について
期日	令和8年2月5日(木)
報告者	中島信二
概要	人口6463人(R7.11.1現在) 面積95.19㎢ 町の80%が森林(このうち80%が国有林) 日本最大規模の照葉樹林(1982.九州中央山地国定公園指定、町の憲章に自然生態系を生かして育てる町にしようとある。 又、綾町条例にオーガニック給食の推進に関する条例があり、子どもたちの食育、郷土愛を育む、地産地消、自然生態系農業への理解とあり、生産農家がお米学習、綾人体験、役所の農林推興課がほんものセンター職員、農家(有機農業研究会)が集まりワーキングループとして野菜の流通や今後の方針等の情報交換行う、次に学校HP産地等掲載、給食の写真や献立、産地等の紹介情報を発信し、主要野菜使用量調査して調理し給食指針作成し、調理業務委託業者や栄養教諭に対し、年間の目指すオーガニック給食の献立作成、調理の指針を作成し、持続可能化を図る、オーガニック補助金はR6～小学校500円/年中学校600円/年 食育と教育総務課が担当している。 有機農業推進に関しては、本来機能すべき土などの自然生態系をとりもどし、食の安全と、健康保持、遺伝毒性を除去する農法の推進である。遺伝子組み換えの作物を栽培しないことなど。 1967年 町の80%の照葉樹林の交換伐採計画が国より打診 町民80%を超える反対請願署名後中止となり、その後町民の意識が「自然環境保全」へと大きく変え、その後町づくりはこの照葉樹林をベースに進められている。
所感	八女市においてはオーガニック農法については重要視はできるが市全体で推める施策としては大変難しいと思う、中山間地農業など特定の地域農法としては生産物の特化により付加価値商品として育つのであればいいが？又、人材、コストを考えるとなかなか難しいのでは…？ 確かに自然生態系農業に推進していかなくてはならないが…？